

米原市立幼稚園の今後の在り方について

(答申)

令和4年3月

米原市幼稚園の在り方検討委員会

【はじめに】

米原市幼稚園の在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）は、市内唯一の幼稚園である市立山東幼稚園について、就園児数が減少している現状と施設の老朽化の課題を踏まえた今後の施設の在り方を広範な分野で審議するよう市長から諮問を受け、令和3年7月28日に第1回会議を開催しました。

検討委員会は、学識経験者、幼稚園の保護者代表、児童福祉施設の長、市内小学校の校長、元山東幼稚園園長、地元自治会の会長、公募による市民2人の計8人の委員で構成され、第2回以降の会議は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン会議となりましたが、各委員の理解と協力により全4回にわたり、活発な議論を重ねました。

検討委員会では、諮問に従い、広範な分野により今後の施設の在り方を検討するため、就学前の子どもがいる家庭の保護者のニーズと山東地域（旧山東町域）の民間園（柏原こども園、長岡学園、大原保育園）の意向を踏まえることとし、市内未就園児がいる家庭と山東地域で教育・保育施設を利用中の子どもがいる家庭へのアンケート調査、および山東地域に立地する民間園へのヒアリング調査を実施しました。また、会議の中で、2つの調査のほかに実際に子どもたちの実情も把握する必要があるとの意見があり、山東幼稚園と柏原こども園の2園の視察も行いました。

この答申書は、これら各種調査の結果および視察の内容を踏まえ、検討委員会として米原市の幼稚園の今後の在り方についての考えをまとめさせていただいた次第です。

なお、検討委員会の答申後に市当局が判断される際には、今後山東幼稚園をどのような方向性で活用されるとしても、子どもたちのことを中心に考える視点を大切にしたい施設の在り方となることを強く要望します。

令和4年3月28日

米原市幼稚園の在り方検討委員会
会長 西川正晃

《もくじ》

1	市立山東幼稚園の現状と課題	3
	(1) 就園児数の減少について	3
	(2) 施設の老朽化について	5
2	市民アンケート調査・民間園ヒアリング調査の結果まとめ	6
	(1) 市民アンケート調査結果のまとめ	6
	(2) 山東地域民間園ヒアリング調査結果のまとめ	8
3	米原市立幼稚園の今後の在り方について	9
	(1) 山東幼稚園の今後の望ましい在り方について	9
	(2) 山東幼稚園を教育・保育施設として運営を継続させた場合の影響について	9
	(3) 結論（まとめ）	11
4	参考資料	12
	(1) 諮問書（写し）	12
	(2) 天狗の丘公園・米原市立山東幼稚園施設図	13
	(3) 米原市立幼稚園のあり方検討委員会委員名簿	14
	(4) 米原市幼稚園の在り方検討委員会検討の経過	15

1 市立山東幼稚園の現状と課題

山東幼稚園は、施設の耐震性や老朽化などを背景に4つの幼稚園（柏原・東・西・大原）が統合整備され平成15年に開園した施設です。園舎には天狗の丘公園が隣接しています。

平成22年3月に市が策定した幼保一元化推進プランにより、市内各地域では保育所、幼稚園の統廃合などが実情に応じて行われてきましたが、山東幼稚園が立地する山東地域は、公立の幼稚園1園と民間の教育・保育施設3園（柏原こども園、長岡学園、大原保育園）が立地する地域であることから、山東幼稚園は現在に至るまで幼稚園の形態として施設が運営されてきた経緯があります。

山東幼稚園は、開園以降18年に渡り多くの子どもたちに教育・保育を提供してきましたが、現在は、就園児数の減少と施設の老朽化が課題となっています。

(1) 就園児数の減少について

山東幼稚園の就園児数は、山東地域の人口減少と保育所、認定こども園を選択する保護者の増加により、平成22年度の131人をピークに減少しています。

近年は、39人とピーク時の3分の1を下回る状況となり、園での集団生活の中で培われていく対人関係能力、社会適応力の育成が課題となっています。

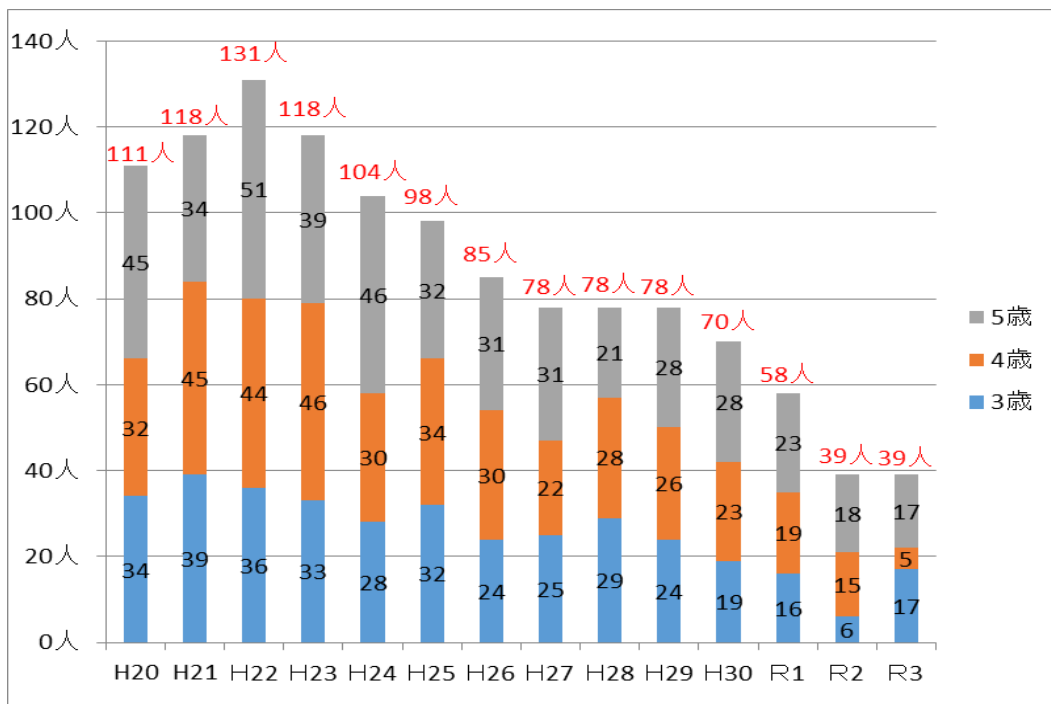


図1 「山東幼稚園4月1日時点利用者数推移」

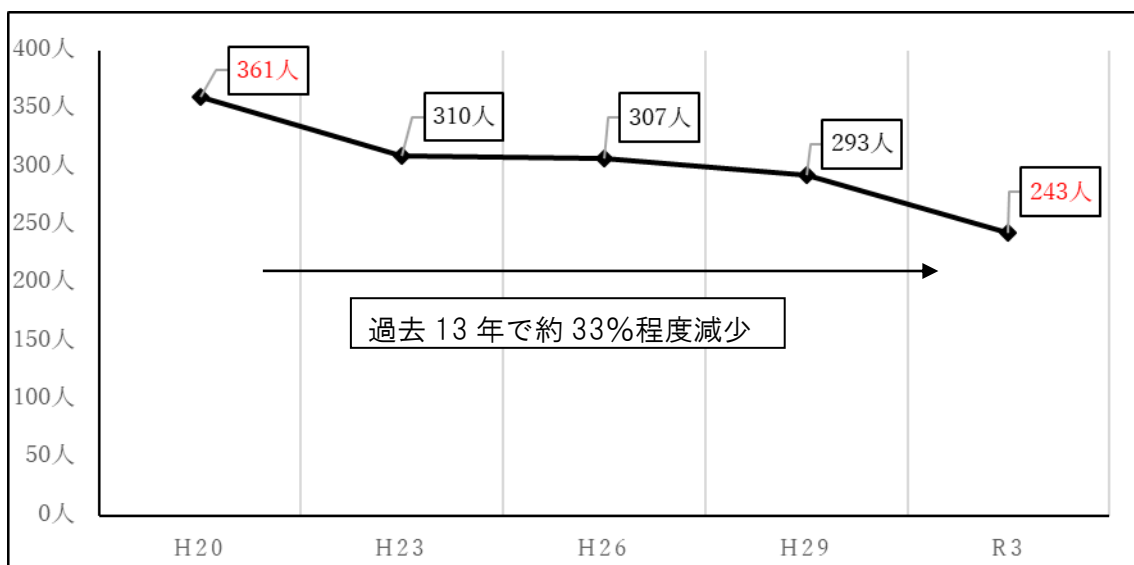


図2 「山東地域3～5歳児4月1日時点総人口推移」

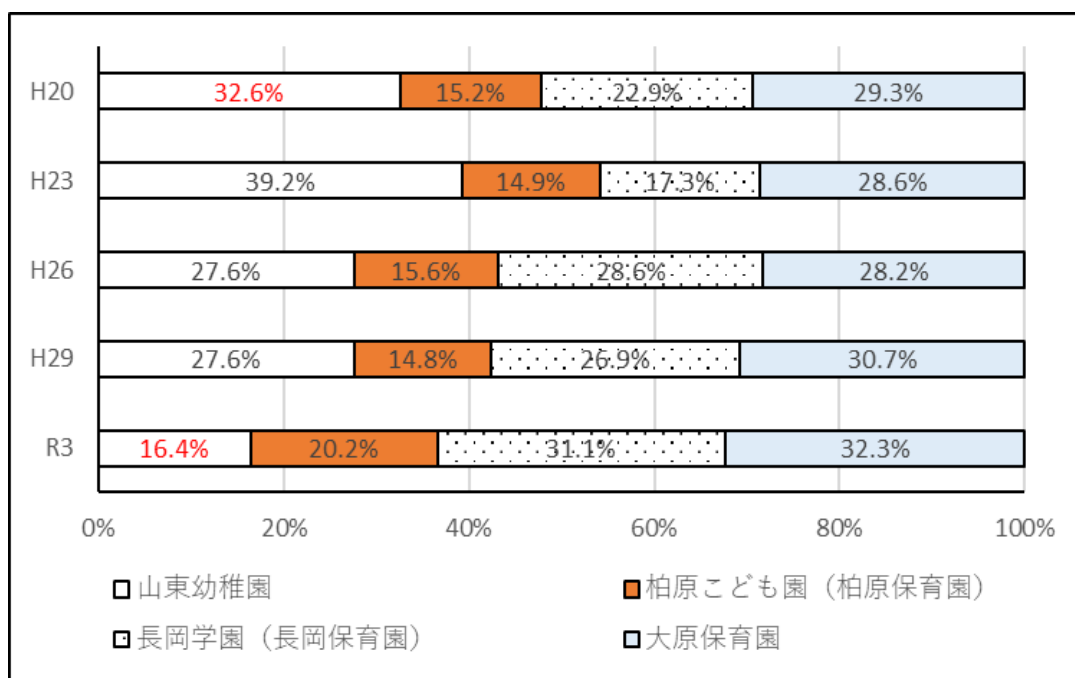


図3 「山東地域施設別利用者割合推移」

※長岡学園は平成31年4月、柏原こども園は令和2年4月から保育所から認定こども園に移行しています。

(2) 施設の老朽化について

施設は、老朽化による外壁の腐食が原因で、雨漏れ等修繕が頻繁に必要になり、今後施設を維持するために多額の修繕費用が必要になる状況となっています。



山東幼稚園の雨漏れの様子

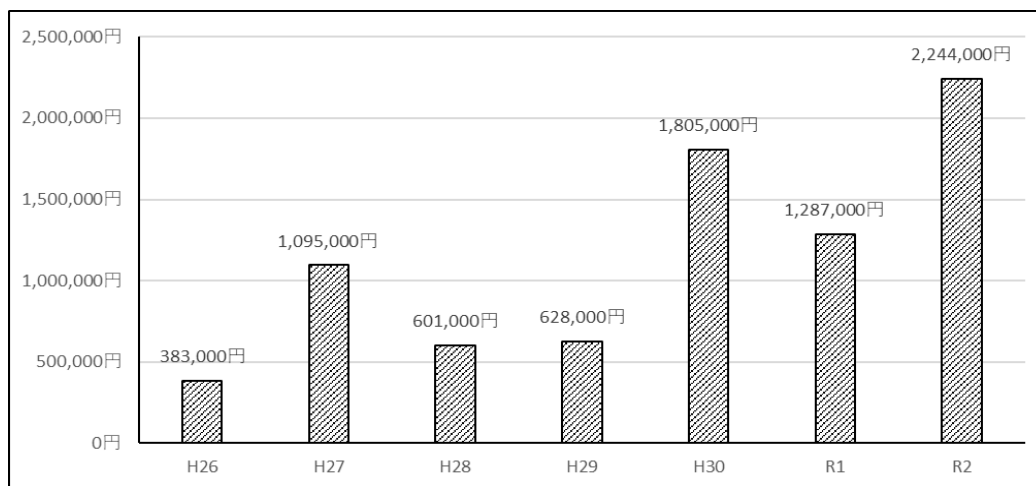


図4 「山東幼稚園の老朽化等による修繕費用推移」

2 市民アンケート調査・民間園ヒアリング調査の結果まとめ

今後の幼稚園の在り方を検討するに当たり、就学前の保護者のニーズ、山東地域の実情を調査するために、就学前の保護者に対してアンケート調査を実施するとともに、山東地域に立地する民間園3園にヒアリング調査を実施しました。

(1) 市民アンケート調査結果のまとめ

令和3年10月1日現在において市内の未就園児がいる家庭420世帯と山東地域の在園児がいる家庭265世帯の計685世帯にアンケートを実施したところ405世帯（回答率：59.1%）から回答がありました。

調査結果を見ると、アンケート回答者のうち、保護者が就労している世帯もしくは就労を希望する世帯は8割以上であり、就園希望先は認定こども園、保育所を希望する世帯が上位にあります。また施設を選ぶ理由としては、小学校への進学、きょうだいの就園状況を意識して施設を選択する傾向があるため、保護者の教育・保育施設に対するニーズは、小学校の進学を踏まえた、小学校区内での長時間の預かりが可能な施設であることが伺えます。

■ 保護者が就労を希望する世帯、もしくは就労中の世帯の割合

山東地域未就園児	41世帯中33世帯（80.4%）
山東地域在園児	194世帯中174世帯（89.6%）
山東地域以外の未就園児	170世帯中141世帯（82.9%）

■ 保護者が利用を希望する教育・保育施設

山東地域未就園児	1.認定こども園長時部（35.8%） 2.保育所（30.9%） 3.幼稚園（24.7%）
山東地域在園児	1.認定こども園長時部（40.9%） 2.保育所（35.2%） 3.幼稚園（15.1%）
山東地域以外の未就園児	1.認定こども園長時部（59.4%） 2.認定こども園短時部（30.0%） 3.保育所（6.5%）

■ 保護者が教育・保育施設を選ぶ理由

山東地域未就園児	1.小学校区だから (31.8%) 2.長時間預けられるから (16.5%) 3.通勤途上だから (10.6%) 3.周辺の自然環境による (10.6%)
山東地域在園児	1.小学校区だから (26.1%) 2.きょうだいが就園しているから (15.4%) 3.長時間預けられるから (14.1%)
山東地域以外の未就園児	1.小学校区だから (30.6%) 2.通勤途上だから (12.0%) 3.きょうだいが就園しているから (11.5%)

一方で、保護者が考える幼稚園の今後の在り方を検討する上で重視する視点として最も多かった意見は、「長時間の預かり」で、次いで「クラス人数・集団規模」の順になりました。

■ 幼稚園の今後の在り方を検討するにあたり重視する視点

山東地域未就園児	1.長時間の預かり (30.9%) 2.クラス人数・集団規模 (16.0%) 3.教育・保育内容 (13.8%)
山東地域在園児	1.長時間の預かり (34.9%) 2.クラス人数・集団規模 (17.9%) 3.教育・保育内容 (11.4%)
山東地域以外の未就園児	1.長時間の預かり (27.7%) 2.クラス人数・集団規模 (16.8%) 3.子育て関連施設の充実 (15.9%)

また、アンケートには幼稚園の今後の在り方や、育児・子育てに関する自由記載欄を設けていました。685世帯中196世帯(28.6%)から意見があり、最も多かった内容は、認定こども園への移行など何らかの方法で施設の存続を希望する意見(100件程度)でした。

(2) 山東地域民間園ヒアリング調査結果のまとめ

山東地域の民間園3園（柏原こども園、長岡学園、大原保育園）に第2回までの検討委員会での審議の内容を報告の上、施設の今後の在り方について意見を伺ったところ、山東幼稚園が通常の保育提供時間以外の保育を実施する「預かり保育」を実施している状況から、幼稚園として施設を運営することに限界があり、別の施設として活用することを検討する必要があるのではないかとの意見をいただきました。

さらに、今後の施設の具体的な在り方について意見を伺ったところ、地域の少子化の状況を考えると引き続き税を投じて教育・保育施設として運営を継続するよりも、市内には子どもの遊び場が少ない意見をよく聞くことから、周辺の恵まれた環境を活かして、子どもの遊び場など多目的施設として活用する方法がよいのではないかとの意見をいただきました。

また、山東幼稚園を教育・保育施設として施設を活用しない場合の各園の対応について意見を伺ったところ、山東地域の子どもの受け皿として各民間園が協力して受け入れることが可能である旨の意向を確認しました。

■ 民間園ヒアリング調査結果概要

○ヒアリング対象施設

山東地域民間園（柏原こども園、長岡学園、大原保育園）

○日時・場所

令和3年11月29日（月） 14時から15時23分まで

山東支所2AB会議室

○主な意見

- ・この問題は人口減少、子どもの数が減っていくということ、財源は無限ではないということを重視した視点が必要である。
- ・山東幼稚園が通常保育以外の預かりを実施している状況から、幼稚園と言える運営形態ではないと言える。違う方向性も検討すべきではないか。
- ・山東地域周辺に利用可能な施設がある状況で税を投じて園を継続、改修することに市民から理解が示されるか疑問である。少子化も考えると教育・保育施設としての継続は難しいのではないか。
- ・山東幼稚園が継続できなくなった場合、民間園で受け皿の協力はさせていただきたい。
- ・施設周辺は恵まれた自然環境にあるので、教育・保育施設として継続ができない場合は、市内では遊び場が少ないという声をよく聞くので、子どもの遊び場として活用してもよいのではないか。

3 米原市立幼稚園の今後の在り方について

各調査結果を踏まえ、検討委員会で意見交換を行った結果、以下の結論に至りました。

(1) 山東幼稚園の今後の望ましい在り方について

市民アンケート調査では、アンケートに回答した保護者の8割以上が就労のため長時間の預かりを希望している状況が伺えます。さらに、幼稚園の今後の在り方を重視する視点としては、「長時間の預かり」、「集団の規模」を重視すべきとの意見が多かったことを踏まえると、山東幼稚園は、長時間の預かりができる教育・保育施設にするとともに、利用者も増加させることが保護者のニーズに対応できる運営形態となることが、考えられます。また、子どもの遊び場や子ども食堂など教育・保育施設以外の用途として、施設を存続させる意見もあり、他の用途への転用も選択肢の一つとして考えられます。

■ アンケートで寄せられていた幼稚園の存続を希望する意見（一部抜粋）

- ・ 山東幼稚園の現状を知って悲しい。天狗の丘を生かして、子どもが思い切り遊べる場所であり続けて欲しい。
- ・ 自然豊かで伸び伸び子どもを育てる環境に適しているので幼稚園を存続させて欲しい。
- ・ どうにかした形で沢山の子ども達が通える様になればいいと思う。
- ・ 園児数の減少はあるが、在籍している園児やこれから山東幼稚園を必要とする方の為に力を注ぐべきではないか。費用を抑える等、柔軟に対応して欲しい。
- ・ 幼稚園として使わなくなるのであれば、遊び場として開放して欲しい。
- ・ 通常の幼稚園としてではなく、別の施設として改修するのはどうか。例えば、学童や子ども食堂のようなところなど。

(2) 山東幼稚園を教育・保育施設として運営を継続させた場合の影響について

長時間の預かりを実施する教育・保育施設として運営させた場合、共働き家庭の保護者のニーズに対応できる一方で、民間園のヒアリング調査やアンケートにおいて一部意見があるように、今後少子化が見込まれる状況から施設を維持存続させることは難しいとの意見もあります。さらに、今後の施設の老朽化に係る修繕、維持管理費用も課題であり、長時間の預かりを実施する教育・保育施設として運営させる場合の、メリットとデメリットが考えられますので、次のとおりまとめました。

■ 山東幼稚園を子どもの預かり時間を延長した施設に変更した場合

メリット

- ・ 共働きの保護者のニーズにあった運営形態にすることができる。
- ・ 山東地域内で保護者が公立と私立を選べる環境を引続き維持することができる。
- ・ 山東幼稚園利用者が現状より増加すると見込まれる。

デメリット

- ・ 預かり時間の延長を行った場合、山東地域内で利用者が分散され、民間園においては利用者が減少することにより、経営が維持できない可能性がある。
- ・ 今後の少子化の動向により、預かり枠の拡大は山東地域で過剰となる。
- ・ 施設の老朽化にかかる修繕整備など施設を維持させるために多額の経費が必要になる。

山東幼稚園の長時間の預かり実施の課題の中で、全国的な少子化の進行により、山東地域もこれまでの人口推移と同様に、今後子どもの人数が減少することは、特に考慮する必要があります。

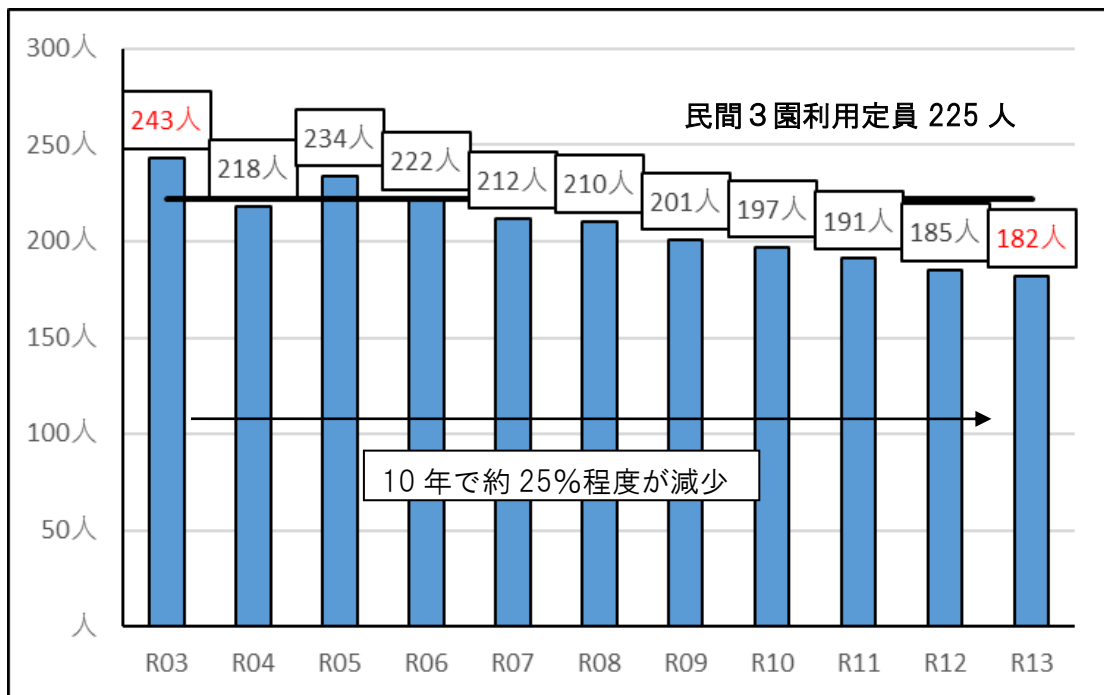


図5 山東地域の3から5歳児の人口推計

※ 推計値は、3年単位を集団とするコーホート変化率法により推計

子どもの人数が減少している状況で、山東幼稚園の預かり枠を拡大した場合、山東地域の教育・保育施設間で利用者の分散が発生することが推測されます。結果、山東幼稚園の長時間の預かりの実施は、民間教育・保育施設への経営的影響だけではなく、地域内全てにおいて教育・保育施設の「集団の規模」が維持できなくなり子どもたちの教育・保育環境に影響を及ぼすことも考えられ、過剰な定員枠となる場合もあります。

(3) 結論（まとめ）

市立幼稚園の今後の在り方を様々な視点から検討した結果、幼稚園の今後の在り方に対する保護者のニーズとしては、「子どもの長時間の預かり」、「クラスの人数の集団規模」が高い傾向にあります。アンケート調査からも多くの方から長時間の預かりを行う施設として山東幼稚園の存続を望む意見が強く伺えます。

しかし、全国的な少子化の傾向を踏まえると、山東地域内においても、今後一段と少子化の進行が予想されます。このため、山東幼稚園を長時間の預かりを行う施設として運営していくことは、過剰な定員枠の確保となり、地域内の教育・保育施設間で利用者の分散が発生し、教育・保育施設の「集団の規模」の維持が困難になることが懸念されます。

このことから、地域の今後の動向などを踏まえた総合的な判断が必要となるため、その判断は市当局に委ねることとします。なお、総合的な判断の結果により、山東幼稚園を教育・保育施設以外の施設へ転用することも一つの手法として、やむを得ないと考えられます。

ただし、教育・保育施設以外の施設として検討される場合には、以下に掲げることを市当局において対応され、地域や市民の思いを十分に考慮された上で判断されることを検討委員会として要望します。

- ・ 他の用途への転用の時期は、山東幼稚園に在園する子どもや山東地域の就学前の子どもの不利益になることがないように、十分検討の上判断すること。
- ・ 施設の用途は、隣接する天狗の丘公園も含め、地域への配慮も行いながら可能な限り子どもに関連する用途となるよう検討すること。
- ・ 用途の変更に際し、改修や維持管理に多額な経費が伴わないよう工夫すること。
- ・ 「米原市保育の指針」に基づき、地域内の教育・保育施設全体の保育の質の向上に努めるとともに、地域内の子どもが、安心して円滑に小学校に就学できるよう、幼小連携を推進していくこと。

Ⅲ 参考資料

米 保 幼 第 602 号
令和3年(2021年)7月28日

米原市幼稚園の在り方検討委員会 会長 様

米 原 市 長 平 尾 道 雄

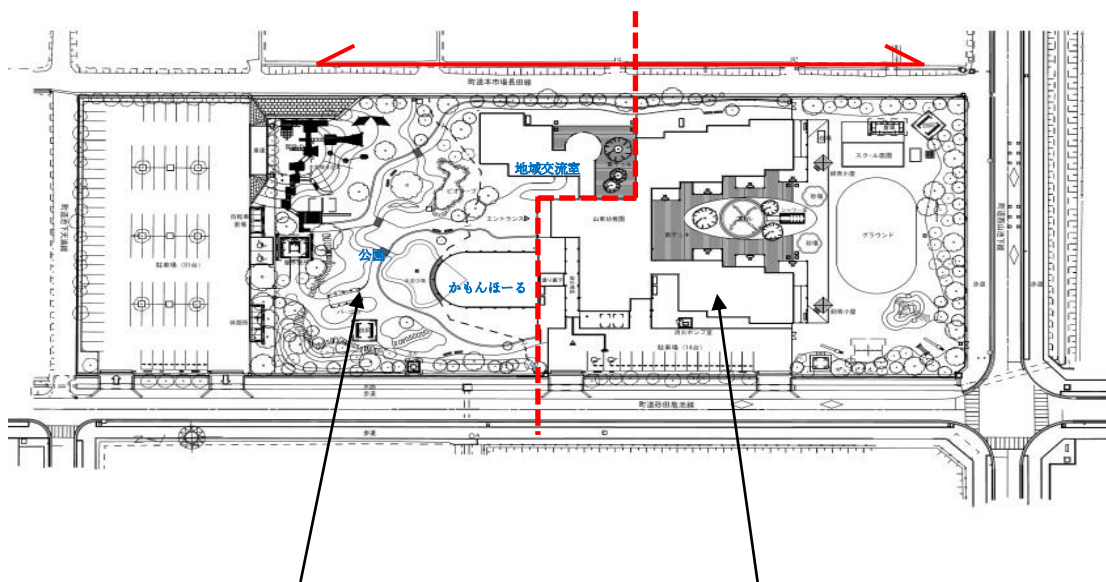
米原市立幼稚園の今後の在り方について（諮問）

市内唯一の幼稚園である米原市立山東幼稚園は、三島池や伊吹山など周囲の恵まれた自然環境の中で平成15年4月に開園し、多くの子どもたちに就学前教育を提供してきました。

しかし、近年の社会の変化に伴い、保育の利用を希望する保護者が増加する反面、山東幼稚園の就園児数が減少しており、集団の形成が難しくなっています。また、園舎は建築後18年を経過しており老朽化が課題となっています。

そこで、現状と課題を踏まえた今後の山東幼稚園の在り方について、広範な分野での立場で御審議いただきたく、米原市幼稚園の在り方検討委員会に対し、諮問いたします。

■ 天狗の丘公園・米原市立山東幼稚園施設図



	天狗の丘公園	山東幼稚園
施設概要	公園（大型木製遊具、四阿、パーゴラ等） 3,500 m ² 地域交流室2室、絵本室、ホール（かもんほーる）、屋外デッキ 林野庁補助（木材産業経営革新公共施設整備事業 補助率1/2）	園舎 木造平屋建 1,363 m ² 保育室7室、幼児用便所、教材室、職員室等 文部科学省補助（幼稚園施設整備事業等 補助率1/3） 定員：110人
施設の外観		

「米原市幼稚園の在り方検討委員会」委員名簿

(敬称略)

区分	氏名	性別	選出団体等	備考
1号委員 (学識経験者)	西川正晃	男	岐阜聖徳学園大学	会長
2号委員 (幼稚園保護者代表)	阿原光宏	男	山東幼稚園 PTA 代表	
3号委員 (児童福祉施設の長)	竹中礼子	女	柏原こども園園長	
4号委員 (市内小学校の長)	金澤博文	男	大原小学校校長	
5号委員 (公募による市民)	高橋容子	女	公募委員	
	北川真依子	女	公募委員	
6号委員 (教育委員会が適当と認める者)	馬淵孝子	女	元山東幼稚園園長	副会長
	千葉泰治	男	池下自治会会長	

【任期：令和3年7月28日から令和4年3月31日までの期間】

米原市幼稚園の在り方検討委員会検討の経過

回	時期	主な内容
第1回	7月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の立ち上げ ・検討委員会立ち上げの経緯・目的の説明 ・今後の進め方について
第2回	10月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査方法内容協議（アンケート調査の内容の検討等）
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査実施 ・民間園ヒアリング調査実施
視察	11月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・山東幼稚園、柏原こども園において実施
第3回	12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果の報告 ・今後の施設の在り方について、各委員意見を交換
第4回	2月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・答申（案）協議
	3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・市長への答申